

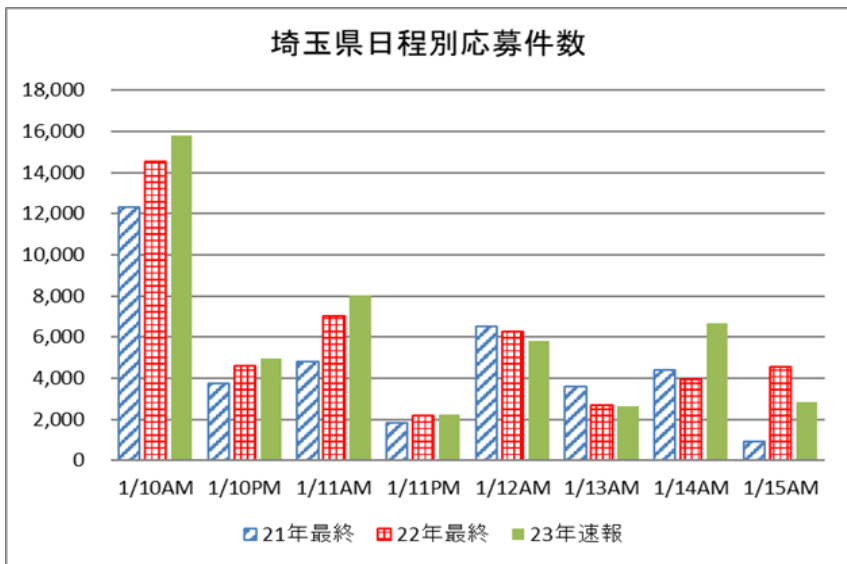
埼玉県私立国立中入試概況

1. 概況 応募総数は大幅増加、早い日程に集中

埼玉県内の公立小6児童数は義務教育学校を含めて約 61,600 名で、昨年より約 600 名減っています。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は、2月28日現在では約 60,600 名で、昨年の最終が約 57,900 名でしたから約 2,700 名と、一昨年、昨年に続いて今年も大幅に増えました。埼玉県の各校は東京都・神奈川県・千葉県の中受の事前のお試し受験生が多く、埼玉県自体の拡大だけでなく、お試し受験生の増加もあつての応募者増加です。2月28日現在の公表校のみの集計では、実際の受験者数は約 46,000 名で昨年最終より約 1,300 名増加、合格者数は 27,600 名あまりで、昨年最終より約 1,000 名増えています。平均倍率は昨年並みですが、本編にあるように、栄東のA日程の難関大を含むと合格者数は約 3,000 名増えています、平均の倍率は緩和、全体としては少し入り易くなったこととなります。

まず日程別の応募状況から。上のグラフです。他都県同様、私立・国立・公立一貫校合計が本来ですが、国立の埼玉大附属は入試が2月1日でグラフには含まれていません。また、私立各校は一般入試が1月10日開始と、入試日程が日付でルール化されていますが、公立一貫校は曜日固定のため、年ごとに日程が動きます。そのため、同じ日付で見ると応募者数が大きく増減することがあります。

今年も応募総数では1月10日午前が昨年より1,200名以上増えて16,000名に迫る水準になりました。10日午後は400名弱、11日午前は約1,000名の増加です。11日午後以降では14日午前が大きく増えていますが、これは市立大宮国際を除く公立一貫3校の入学者選抜が昨年の15日午前から1日早くなったための増加で、15日午前は大きく減っていますが、これは公立一貫校



3校が抜けて代わりに市立大宮国際が加わった結果ですから減っています。12日午前は約500名弱の減少、11日午後と13日午前は昨年とあまり変わっていません。10日午前午後、11日午前以外は目立たない結果になっていて、やはりお試し受験生の影響が大きい入試です。

次に、難易度別での応募状況も考えてみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べました。Aは難関校、Bは上位校、Cは中堅校、Dはやや入り易い学校、Eは入り易い学校です。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年のお試し受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子として合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。各グループの学校は次のページのグラフの下

に一覧で表示しました。

男子はBグループが最多ですが、Aグループが約700名、率では10%増えています。挑戦志向の強い受験生が昨年以上に集まっています。Bグループは100名あまり減っていて、Aグループに流れた受験生もいたのでしょう。Cグループの増加とEグループの減少は、学校のグループの移動の影響もあります。ただ、B～Eグループを合計すると300名あまり増えている、これが県内での中学受験の拡大分でしょう。

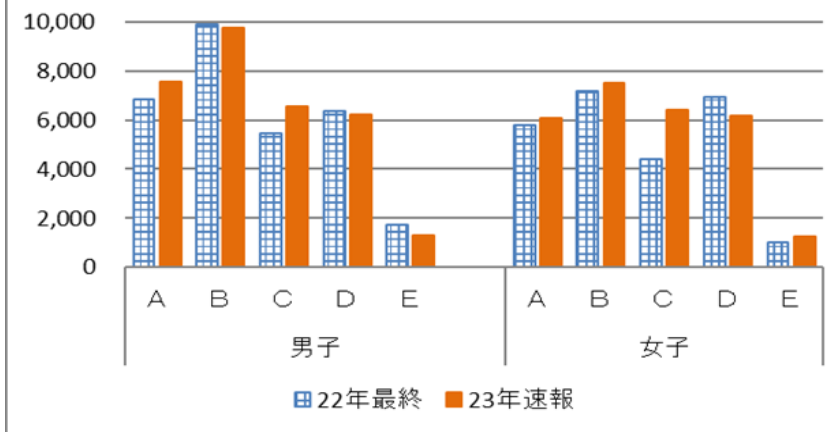
女子は、男子ほどは挑戦志向が高くなっていないようで、Aグループの増加は200名あまりに留まり、Bグループが300名あまり増えている、お試し受験先をBグループにした受験生も少なくなかったようです。Cグループは約2,000名と大幅に増加、Dグループは約800名減っています。男子と同様、学校のグループの移動の影響もありますが、合計すると昨年より約1,200名増えている、県内中学受験拡大分だけでなく、中堅校志向のお試し受験生も増えています。Eグループの増加は純粹に県内中学受験拡大分でしょう。

以下、各校の状況を見ていきます。川口市立、市立大宮国際中等、市立浦和高附属、伊奈学園は、公立一貫校のPDFをご覧ください。

2. さいたま市・その周辺地域

今年も応募総数日本一の栄東から。同校は一昨年、新型コロナウイルス感染拡大防止で最大の受験者数の1回を1月10日と12日の日程選択とし、両日の併願は不可とし、東大選抜を特待として1月16日に集約するなどの変更を行って、受験生側から見れば4回あった入試が実質的に3回に減っていました。そのため、各回次合計の応募者数は減りましたが、それでも1万

埼玉県難易度別応募者数



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で埼玉県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浦和明の星・開智(特待)・栄東(東大)
- B…大宮開成・開智(先端)・開智未来(T未来)・栄東(難関大)・淑徳与野・立教新座
- C…青学浦和ルーテル・大妻嵐山(奨学)・開智未来(未来)・春日部共栄(特待)・埼玉栄(医学・難関大)・埼玉大附属・城西川越(特選)・昌平(T)・城北埼玉(特待)・西武台新座(特待)・西武文理・星野学園・細田学園(特待)
- D…浦和実業・大妻嵐山(一般)・開智未来(開智)・春日部共栄(一般)・埼玉栄(進学)・狭山ヶ丘高付属・城西川越(一貫)・城北埼玉(一般)・昌平(一般)・西武台新座(特待以外)・聖望学園(奨学)・東京農大第三・獨協埼玉・細田学園(一般)・本庄東高附属
- E…大妻嵐山(まなび力)・国際学院・埼玉平成・自由の森学園・秀明・聖望学園(一般)・東京成徳大深谷・武南・本庄第一

名を上回りました。昨年は1回を1月10・11日の日程選択に変更し、12日にも入試を実施して一昨年と同様、4回受験できるように変更するとともに、一般の入試と東大選抜入試を一部入れ替えました。合計の応募者数は1万2千名を超えました。そして今年は特に入試に変更点はなく、応募総数はさらに増えて1万4千名に迫る人数です。合格最低点は12日の東大4科で少し下がり、16日のBは上がっていますが、出題難度的な関係でしょう。併願受験生が多数ですから、難度は昨年と変わっていないようです。

栄東のライバル校、開智は、一昨年は各回次合計の応募者が減りましたが、昨年は増加、今年も微増です。

合格最低点は1月15日午前の先端2回が昨年並みだったものの、10日午前の先端1回、11日午前の先端特待、12日午前の先端A、12日午後の算数特待は下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったようです。

大宮開成は、一昨年は栄東の日程変更の影響もあって各回次合計の減少、昨年は増加、今年も微増です。今年1月10日の1回の女子が少し減ったものの、12日の特待入試は概ね昨年並み、14日の2回は男女とも増加していて、1回の不合格者の再挑戦が増えたようです。近年難化が目立っていますが、1回と特待入試は合格最低点が下がっていて、2回は昨年並みです。難化傾向が一段落したように見えますが、出題難度との関係もあり、入り易くはなっていないようです。

青学浦和ルーテルは2019年に青山学院大学の系属校になって校名を変更した学校です。基本的に小中高一貫校のため、入試も小規模でしたが、系列化に伴って人気急上昇、応募者が大幅に増加しました。人気の理由はもちろん、青山学院大学への内部進学です。2教科受験を取りやめても応募者の増加は続きましたが、昨年は大きく減りました。今年入試を3回から2回に減らしたから、さらに減っています。急速に難化したため、敬遠ムードも見られます。合格最低点は未公表ですが、受験生の学力水準が上がっているため、難度は下がっていないようです。

栄東の系列校、埼玉栄は2回ある帰国生入試を1回に統合して日程を変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は前年よりも減ったものの、昨年は大幅に増加、今年も増えています。同校自体の人気も上がっていますが、1月10日・11日は午前为荣東を受験し、午後埼玉栄を受けるといった「パック受験」が浸透してきた面もあります。医学・難関大・進学の3コースで、合格最低点は1月13日午前の5回が各コースとも少し下がっていますが、出題内容の影響でしょう。他の回次は概ね昨年並みで、難度は昨年並みでしょう。

浦和美業学園は英語入試を1月13日午前から17日午前に変更しました。昨年に続いて今年も各回次合計の応募者数は増加が続いて人気が上がっています。2回ある適性検査型入試や1月10日午前午後などで増加が目立っています。合格最低点は11日午前の適性1回の上昇、19日午前の適性2回は下降が目立っていて、他の回次は小幅の変化です。適性検査型は出題内容で

かなり得点力が変わりますので、全体的な難度はあまり変わっていないようです。

武南は3回・4回・5回の日程変更のほか、2月の5回は国または算の選択から2科に変更しました。1月11日午前入試を12日午前に移しました。同校は、以前は都内受験生の「お試し受験」が少なく、入試は小規模でしたが、2019年から入試増設や広報活動の強化などの積極策に出たことで応募者の増加が続いて、各回次合計の応募者数は今年も増加しています。合格最低点は未公表ですが、不合格者が少なく、難度は昨年と変わっていないようです。

国際学院は1月15日午前の5回と2月5日午前の6回を曜日の関係で1日前倒しにしました。小規模な入試の学校で、各回次合計の応募者数は、昨年はやや増えましたが今年は少し減っています。難度は昨年並みだったようです。国立の埼玉大附属は、3月後半に実施していた帰国生入試を、一般と同じ2月1日に繰り上げました。東京の私立中入試と重なる日程であることもあって、独特な人気の学校で、今年男子の応募者が少し減り、その分女子が増えたため、昨年並みの応募者数でした。合格最低点は公表されませんが、難度に変化はなさそうです。

女子校では、浦和明の星は、一昨年には1月14日の1回、2月4日の2回とも応募者が少し減りましたが、昨年は1回が少し増えて2回は減少、今年1回が微減、2回は増えています。2回は昨年まで4年連続で減っていましたが、日程が重なる都内校志向の受験生が少し減ったのかもしれませんが、1回は合格最低点が少し上がって、やや難化したかもしれません。2回は昨年並みです。淑徳与野の応募者数は、一昨年は1月13日の1回が少し減って、2月4日の2回はやや増加、昨年は1回が増加、2回はやや減り、今年1回が微増、2回も少し増えました。同校も2回が増えていて、やはり都内校から受験生が戻ってきているようです。合格最低点は昨年以下がった1回が上がり、2回は昨年並みです。1回はやや難化したかもしれません。2回の難度は昨年並みでしょう。

3. 東武東上線南部・西武線方面

男子校から見ていきます。城西川越は特選と総合一貫の2コース制です。今年1月15日の総合3回を14日に移動しました。各回次合計の応募者数は昨年末

で増加が続いていましたが、今年は減りました。上がっていた人気が一段落です。合格最低点は回次によって上下が見られますが、出題内容との関係でしょう。特選は昨年並みの難度、総合一貫は昨年並みか、若干入り易くなったか、と言ったところでしょう。

城北埼玉は1月10日午前・11日午前に入試を新設、4科入試を2科や2科4科選択に変更、特待入試は算英選択に変更しました。昨年まで各回次合計の応募者数は隔年的に増減していて、今年は増える順番でしたが、少し減っています。2科受験生に門戸を開く入試の変更ですが、逆に進学志向の強い受験生からは抵抗感があつたのかもしれませんが。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、やや入り易くなったかもしれません。

立教新座は、一昨年は1月25日の1回と帰国生の応募者が減って、2月3日の2回が増えていて、昨年は1回と帰国生が増加、2回が減少、今年は再び1回と帰国生が減って、2回が増えています。隔年現象です。合計の応募者数は若干減っています。合格最低点は1回が昨年並み、帰国生が上がって2回は下がっていますが、出題内容の影響でしょう。例年通り1・2回とも補欠が出ていますから、難度は昨年並みでしょう。

男女校では、西武文理は適性検査入試を1月16日午前から14日午前に変更し、同時並行で2回目の教科型特待入試を新設、思考力入試を取りやめるなどの変更があります。一昨年は、それ以前まで実施していたコース制を一本化し、応募者数のカウント方法を変更したため、各回次合計の応募者数は大きく減りましたが、昨年、今年と応募者の増加が続いています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、併願受験生も多く、難度面はあまり変わっていないようです。

星野学園は入試に特に変更点はありません。理数選抜と進学の2コース制で、各回次合計の応募者数は一昨年は大幅に増加、昨年はやや減って、今年は再び増加と、隔年的に変化しています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、2コースとも難度は昨年並みだったようです。狭山ヶ丘高付属は3・4回を1日繰り上げました。昨年までの3年間は各回次合計の応募者数が少しずつ増えていましたが、今年は減っています。人気が一段落したのでしょうか。合格最低点は未公表ですが、実際の受験者数が減った分合格者も減らしてい

ますので、難度面はあまり変わっていないようです。

西武台新座は特選・特進の2コース制で、入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年は微増、今年は大きく増えて人気が上がっています。今年も合格最低点は昨年より少し上がっている回次、昨年並みの回次、下がっている回次が見られますが、出題内容と得点分布の影響でしょう。難度はあまり変わっていないようです。聖望学園は適性検査型で検査Ⅲの選択を実施、18日午前の基礎学力入試を取りやめるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、それまでの減少傾向から増加に転じ、今年も増加が続いています。合格最低点は一部受験者数が少ない回次で上下が見られますが、得点分布の関係です。受験者数が多い回次は昨年並みですから、難度は変化していないようです。

開校4年目の細田学園は、1月6日午前の帰国生2回を5日午前に移し、15日午前の適性検査型のdots2回を取りやめました。開校以来各回次合計の応募者数は増加が続き、今年も若干ですが増えています。ただ、実際の受験者数は昨年並みで、合格者数は少し増えています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度は昨年とあまり変わっていないようです。

全寮制の秀明は、12月の専願・奨学入試と2月のⅡ期の日程を1日前倒しにしました。各回次合計の応募者数は前年並みが続いていましたが、今年は減っています。全寮制で、他の寮制校に流れた受験生がいたのでしょうか。その性格上、今年も小規模な入試で難度も変わっていないようです。自由の森学園は2月5日の一般2回を曜日の関係で1日前倒しにしたほか、C推薦の科目を変更しています。本稿執筆時点でまだ終わっていない入試がありますが、公表の範囲では各回次合計の応募者数が昨年に続いて少し増えているものの、今年も小規模な入試です。難度は昨年並みだったようです。

なお、2024年度入試では、東所沢に仮称・開智所沢中等が開校予定です。地域の入試情勢に大きな変化が起こるかもしれません。

4. 東武スカイツリーライン・伊勢崎線・日光線方面

春日部共栄は、昨年からプログレッシブ政経とIT医学サイエンスの2コース制になっています。2つの

コースは、本来は興味関心で選びますが、中学受験の力は算数で差がつくことが多いこともあって、理系のIT医学サイエンスが少し高い難度になっています。昨年はコース制を受験生が歓迎して、各回次とも応募者数が大きく増えましたが、今年は人気が一段落、合計の応募者数は少し減っています。合格最低点は1月10日午前午後、11日午前は全体的に少し下がっていますが、他の回次は昨年とあまり大きな変化が見られません。合格最低点下がった回次は、少し入り易くなったようです。他の回次は昨年並みの難度でしょう。

獨協埼玉は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は一昨年前年並み、昨年は増加、今年は厳密には微減ですが、前年並みと言ってよい応募者数です。合格最低点は1月11日の1回が上昇、12日の2回が昨年並み、17日の3回は下がっていますが、出題内容の影響が大きいようです。全体的には難度に変化はなさそうです。昌平は、英語入試の1回グローバル入試を1月10日午前から午後に移しました。各回次合計の応募者数は増加が続いていて、今年も増えて人気が上がっています。合格最低点は10日午前の4科が下がり、11日午後の算数入試が上がるなど、一部変化が見られますが、出題難度の関係でしょう。Tクラスも含め、2科や4科の入試は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

開智未来の各回次合計の応募者数は、一昨年は岩槻の開智併願入試の新設で大きく増加しましたが、昨年はその反動で少し減り、今年も若干の減少です。合格最低点は1月10日午後、11日午後、14日午前、15日午前のT未来・未来コースの上昇、10日午前と14日午前入試の開智コースの下降が見られますが、下降は合格者が少ないための得点分布の影響で、全体的にはT未来・未来コースはやや難化したようです。

5. 東上線北部・高崎線方面

大妻嵐山は帰国生入試の日程を曜日の関係で変更しました。各回次合計の応募者数は今年も小幅ですが増加が続いています。どこか特定の回次が目立って増えているわけではなく、多くの回次が少しずつ増えた出願状況です。本稿執筆段階で合格最低点は公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。

男女校では、東京農大第三は曜日の関係もあって、帰国生入試と4回の日程を1日前倒しにしました。各

回次合計の応募者数は一昨年まで増加が続いていましたが、昨年は少し減り、今年も減っています。今年高崎市の系列校、東京農大第二に中学が開校したことで、そちらに流れた受験生もいて、同校も事前にある程度影響が出ることは予想していました。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、不合格者が減っていることから、やや入り易くなったかもしれません。

埼玉平成は2科だった2月の3回を国算英から1科選択に変更、1月15日午前の2回を1日前倒しとし、10日午後のSTEM入試を12日午後に移すなどの変更がありました。一昨年まで小規模な入試でしたが、昨年各回次合計の応募者数は大きく増加、それまでの小規模な入試を脱しました。今年さらに少し増えています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、不合格者は少なく、難度面はあまり変わっていないようです。

高崎線方面では、本庄東高附属が曜日の関係で今年も3回の入試日程を変更して1月21日としたほか、3回は2科4科選択から2科としました。各回次合計の応募者数は一昨年前年減少していましたが、昨年は一昨年並み、今年も昨年と同数で、人気は安定しています。受験者数が少ない回次で合格最低点の上下が目立っているケースが見られますが、得点分布の影響でしょう。難度はあまり変わっていないようです。本庄第一も曜日の関係で3回の日程を1月30日午前から1日前倒しにし、また、11日の2回で英語選択を取りやめました。今年も小規模な入試でしたが、各回次合計の応募者数は大きく増えました。中学受験生が少ない地域ですが、受験生が増えてきています。難度面はあまり変化はなかったようです。東京成徳大深谷は、1月16日の3回を14日に、2月に行っていた4回を1月28日に繰り上げるとともに、11日の2回では適性検査型を、3回では4科を取りやめるなどの変更がありました。中学受験がまだまだ広がっていない地域事情もあって、今年も小規模な入試でしたが、応募者は少しずつ増えています。

☆